

## 目標達成計画

作成日: 平成 24 年 6 月 4 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束は当然行わないという認識のもとで、ケアに取り組んでいるが、「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」などの研修は未実施である。	身体拘束の具体的な行為や利用者に与える影響、なぜ行ってはいけないかということ等について、職員の理解を深める。	・外部の講師による身体拘束廃止に関する研修を法人内で行う。(7月) ・身体拘束廃止の為の事例検討を職員会議にて行う。(8月、1月)	7ヶ月
2	26	アセスメント、モニタリングをもとに介護計画を作成、実施しているが、その実施状況が記録に反映されておらず、介護計画の評価基準が明確でない。	本人の現状に即したより良い介護計画となるように、記録を有効に活用する。	・介護計画の実施状況が記録しやすいケース記録の書式を検討する。 ・ケース記録を変更し、介護計画の実施状況を日々記録する。 ・記録を活用して、介護計画の評価、チームでの検討を行う。	3ヶ月
3	35	年に2回の火災時の避難訓練は行っているが、1、2階に居室があるため、避難の困難さを考えると、訓練の回数は少ない。火災以外の地震等の訓練が未実施である。	訓練を定期的に行うことで、様々な状況でも全職員が的確に行動できる力を身につける。	・毎月何日と日を決めて、出勤職員と利用者で訓練を行う。(時間帯や想定を変えながら) ・訓練の計画や実施報告書を記入し、今後の訓練にいかす。また、訓練を重ねる中でマニュアルが現状に即しているかを適宜検証し、必要があれば変更する。	8ヶ月
4	34	救急法講習会を行っているが、急変や事故発生時の詳細なマニュアルはない。また、定期的な訓練はできていない。	利用者の急変や事故発生時にすべての職員が応急手当や初期対応ができる実践力を身につける。	・想定される体調の変化や事故の種類別の初期対応、応急手当の方法のマニュアルを作成する。 ・初期対応、応急手当の実地訓練を行う。	6ヶ月
5	33	開設から間もないこともあり、重度化や終末期ケアの事例がなく、職員の意識や支援体制作りの取り組みができていない。	終末期ケアについての方針を職員が共通認識し、具体的な支援体制を築く。	・法人内で、終末期ケアの職員研修を行う。(9月) ・終末期ケアの方針について、職員が話し合える場を設ける。	10ヶ月